

A003

- T: えっと、お名前は？。
- I: 【I (フルネーム)】です。
- T: 【I (名)】…
- I: あの、帰化してから〈はい〉【I (名)】になってますので。
- T: あ、わかりました〈はい〉。
あ、【T】と申します。
よろしくお願ひしませう。
- I: あ、こちらこそ宜しくお願ひします。
- T: じゃ、何てお呼びしたらいいですか？。
なんて呼んだらいいですか？。
【I (姓)】…
- I: 【I (名)】ですね。
- T: 【I (名)】さん。
- I: はい。
- T: 【I】さん〈はい〉、はい、わかりま…
えーと一、【I】さんは、もう【地名1】に長いんですか？。
- I: そうですね。
- T: 何年ぐ…
- I: 結婚してから11年になります。
- T: 【地名1】に11年。
- I: はい。
- T: はい。
えーと、今、帰化したって〈そうですね〉おっしゃったんですけど〈はい〉、いつ頃？。
- I: 1年一前ですね。
- T: 1年前。
- I: はい。
- T: えー、そのときのお気持ちを聞いてもいいですか？。
- I: {笑}〈{笑}〉気持ちはね、やっぱり、どうしても日本人になりたいから〈うん〉、はい…
- T: 帰化す…
- I: とても、はい〈うん〉、楽しかったというか、良かったです〈良かった〉。
- T: 帰化して良かった〈帰化して良か…〉。
で、どうしても日本人になりたいっていうのは？。
- I: どうしてというか〈うん〉、やっぱり、息子いるから〈うん〉、あの一、4歳のときに、実家に帰ったんですよ。
どうしてお母さんのパスポートは色違うんですかって聞いて、いや、お母さんはパスポートは、の色は違うから、僕は日本人だけど、お母さんは日本人じゃないよ〈うん〉、フィリピン人ですよ〈うん〉って言ったら、なんか、あれ一って、どうして日本にいるのに〈うん〉、お父さん日本人なのに、なんで僕のママフィリピン人かな、やっぱりまだ4歳だから〈うん〉、で、あたし、そのとき、いや、日本人になるか、できるかなって主人に聞いて〈うん〉、いや、あたしもわからないけども、聞きみるかって〈うん〉。
でも、しばらく〈うん〉、やっぱりあたしもゆっくり考えないと〈うん〉、じか[実家]のかそく[家族]とか、お母さんとか弟〈うん〉、妹〈うん〉、やっぱり相談しないと〈うん〉、あと自分の気持ちも、本当になりたいかな〈うん〉、やっぱりなりたかったんですよ〈うん〉。
- T: そのとき、たぶんなろうかならないか、こう、揺れた…
- I: そうでしょう、フィフティーフィフティーですね。
- T: はい。
- I: はい、でも…
- T: で、ならないって思った理由は何ですか？。
もし、なら、ん、なると思う理由はだいたいわかりました、お子、お子さんのこと。
- I: そうですね。
- T: でも、あの一、その帰化をしないと、しー、いう心、動く理由っていうのかな。

A003

- I : 例えば〈は〉, やらなかった？。
- T : はい。
- I : あー。
なれなかったら, やっぱり, このままでもいいんですかって, あの, 永住の。
- T : はい。
- I : はい。
*…
- T : あ, 帰化できなかつたら。
- I : はい。
このままでもいいかな〈うん〉。
でも, やらな, なれ, なり, なんていうかな, ならなかったも〈うん〉, 日本の, あー, す, な, なんていうかな, クーチャー [カルチャー] 〈うん, ん?〉, クーチャー, たら…
- T : 何でしょうか？。
- I : あのー…
- T : 例えば。
- I : 例えば, あのー, 日本語のがこ [学校] にもう行ってのんですけども〈はい〉, お茶会とか生け花とかやのんじゃないですか〈はい〉, わたしたちは〈はい〉。
そういう会も〈はい〉続けて〈ええ〉やりたいんですよ〈はい〉。
あとー, あの, 町内の, あのー, 花見とか〈はい〉, 日本語勉強会の花見とか〈ええ〉, あの, バスりよこ [旅行] とか, やっぱりみーな [みんな] と一緒に〈んー〉, はい, ふれあい〈はい〉。
はい。
- T : えーと, はい, 日本の文化をたくさん, こう, いろいろ学びたいっていうのはわかったんですけど, その, 例えば, フィ, せっかくフィリピンのお母さんと日本のお父さんから生まれて, フィリピンの文化をいろいろ子ど, お子さんに伝えたいとか, そんなふうにも…
- I : そうですね, うちの息子は〈はい〉, せぬれい [洗礼] 受けました〈はい〉。
主人とそうだ [相談] して〈はい〉, うちの主人も, はいっていったから〈ええ, ええ〉, ちゃんと, あの, 教会で〈はい〉洗礼受けて〈はい〉, で, たまに, あのー, カソリック教会 [カトリック教会] 〈はい〉連れて行って〈はい〉, でも, やっぱりね, 僕はなんで連れていかなきゃいけないかな〈んー〉って聞くんですよ〈うん〉。
で, なんで神様に, な, 例えば, あのー, 悪いことすれば〈うん〉, 神様怒るよー〈うん〉って, 例えば, 何かあったら〈うん〉, あ, 例えば, いいこととか〈うん〉, あ, 神様のおかげだよー〈うん〉って, おしってるんですよ〈はい〉。
やっぱりお母さんとお父さんは, 大事ななきゃいけないんですよー〈うん〉。
はい〈うん〉。
- T : その教会, 洗礼受ける〈はい〉っていうことで, あ, い…
- I : クリスマスですね, はい〈はい〉。
- T : 今, えっと, すいません, ちょっと, おとう, えっと, ご主人と奥さまと4歳のお子さん, あ…
- I : あ, 今は4年生です。
*歳です {笑}。
- T : あ, はい, ごめんなさい, 今4年生のお子さん, と, えーと, おじいさん, おばあさんとかは…
- I : います。
- T : 一緒に。
- I : *, うちの主人は次男〈はい〉ですから〈はい〉, はい。
- T : 一緒…
- I : 別に住んでます〈別に住…〉, はい。
- T : あのー, ただそういう洗礼を受けるとかいうことに, まわりの家族から, なんか反応はなかったですか？。
- I : やっぱりうちの主人は長男ではないから〈はい〉, なんていうかな, あのー, 長男だったら, やっぱり, あの, 主人のお母さんとか〈はい〉, 主人の家族とか, やっぱり, 言わないといけないんですよ〈んー〉。
でも, 関係ないから, 主人と2人だけで〈うん〉, はい, 相談して〈はい〉, いいんじゃないかな, うちの主人は, いいんじゃないかな〈んー〉。

でも、やっぱり、日本で生まれたから〈うん〉、そういう、なんていうかな、僕はクリスチャンだけど、なんとすればいいかな、って〈んー〉、みんなと違うかな、って僕は〈うん〉、いや、クリスチャンだったら、なんていうかな、神様にこわいじゃない、悪いことすれば、神様に悪いね〈うん〉。

やっぱり、あの一、例えば、今のニュース見れば、やっぱり、子どもたちも、うちは4年生だから、自殺とか、うちの子には、あんまり、そういう事件は無いんですよ。

T: {笑} はい。

I: はい。

やっぱり神様に〈んー〉こわいから、ね。

T: じゃ…

I: 例えば、大きい問題あったら〈はい〉、ゆっくり祈りして〈ええ〉、はい、で、祈りしたら、なん、なんていうかな、やっぱり神様いるから〈はい〉、神様がきっと助ける〈あー〉。

で、みんな一生懸命祈りして〈はい〉、教会行って、め、まわりの人も、じゃ、あなたのことも祈りするんですよ。

T: じゃ、その、カトリックていうか〈はい〉、あ、その一、し、信仰することでフィリピンの文化をお子さんに、こう、伝えている、っていうふうに〈そうですね〉、お、考えていらっしゃるんですか？

I: そうですね〈うん〉。

T: で、今、あの一、日本社会、その、さっきおっしゃったように、自殺とか増えている〈はい〉。

それは、じゃ、そういう宗教心が無いから、っていうふうに考え…

I: あたしはね〈はい〉、たぶん半分はそういう〈んー〉、たぶん。

たて、うちの子にもね〈はい〉、あの一、まずしすとたち〔貧しい人たち〕〈はい〉、食べものなくても〈はい〉、恥ずかしくないで、隣の家、お米ちょうだいって言うんですよ〈はい〉。

あたしはね、日本人には、恥ずかしがりや、やっぱり、プライド〈はい〉。

例えばね、貧しい人、あたしはね、1回も見たことないけど、日本は〈うん〉、ね。

T: 貧しい人っておっしゃるのは、どういう意味ですか？

I: 貧しい人は〈うん〉、えぐ〔英語〕というか、プア。

例えば、あの一、うちの子には、いた、いったことあるんですか？

T: いや、ないです。

I: ないんですよね〈はい〉。

結構いるでしょ〈はい〉、まそしすと〔貧しい人たち〕は、あの一、ホームレスよりもっとひどいんですよ〈はい〉。

ほんとに食べもの、ないんです〈はい〉。

T: で…

I: で、朝は、家族で朝は、なに、なに食べるかな、考えながら寝るんですよ〈うん〉。

じゃ、あすた〔あした〕なれば考える、って〈うん、うん〉、必ず祈りするんですよ〈うん、うん〉。

じゃ、神様、あすた、また、子どもたちですね〈はい〉。

神様、あすたの食べもの、なんとか、なりますように、おねがします〔お願いします〕〈はい〉。

で、なんとかなるんですよ。

T: {笑} はい。

I: ごみがい〈ええ〉、ね、一生懸命〈はい〉、で、ごみから、あつたら、うって〈はい〉。

はい。

T: で、その一、日本では貧しい人に出会ったことがない〈はい〉、って今おっしゃって〈はい〉、それで、だけど？

I: 例えば〈はい〉、あたしの聞いた話ね。

あの一、なんていうかな、しゃっきんばい〔借金いっぱい〕ある人〈はい〉。

例えば、あー、もう、どうしても払わない〈はい〉、自殺すぬんじゅんですか。

T: あー、借金が払えなくて〈はい〉自殺する〈はい〉、日本では。

I: うちの国はね、なんとかなります〈うんうん〉、もうちょっと、もうちょっと待ってください、なんとかなります。

T: それは、それが、信仰のおかげだ、っておっしゃるんですか、{笑}？

I: あたしは、と思う〈あー〉。

A003

- T: じゃ、もし、あの日本の自殺を減らすためには、じゃ、どういう…
- I: 例えば、病気とか〈はい〉、あ、がんだった、もうだめ〈はい〉。
うちの国は、ほんとに、祈りすれば、ニラケルというか〈はい〉、です、なん、なんというかな、ミラケル。
あの一、例えば〈はい〉、ほんとに、がんになっ、になったけども〈ええ〉、一生懸命祈りして〈はい〉、直るん、っていうかな〈あー〉。
奇跡〈はい〉っていうか。
- T: 奇跡を信じてらっしゃるんすか？。
- I: 信じます。
- T: はい {笑}。
えーと、その、ちょっと話が変わる〈はい〉んですけど、今フィリピンから、って、フィリピンのどちらからいらしたんですか？。
- I: マニラよりちょっと田舎のほうです。
- T: はい、えーと、そこはどんなところなんでしょうか？。
- I: うちの、温泉ある場所ですね〈はい〉。
- T: 温泉が特徴。
- I: 特徴〈んー〉。
はい、あとこみ [米] もいいし、っていう〈はい？〉話も。
- T: はい、ごみ？。
- I: 米、米。
- T: あ、米？。
米がとれる。
- I: はい。
- T: はい。
あ、フィリ…
- I: あと一〈はい〉、ココナッツ。
- T: はい。
- I: はい。
- T: えーと、じゃー、仕事はそういう農家が多いんです。
- I: そうですね〈んー〉。
- T: 観光資源とかはあまりない。
- I: 今は、あんまりないんですね〈んー〉、はい。
- T: 温泉は、あの一、フィリピンの人は温泉に入るんですか？。
- I: 入るんですけども〈はい〉、あの一、裸ではないで〈はい〉、あの一、スビムスとか〈はい〉、海パンとか、男の子は海パンとか〈うん〉、なるべく〈うん〉。
それだけ違うんですね、日本とフィリピンの温泉は。
- T: えーと、どんなかつ、あの、意味で入るんですか？。
日本と同じ？。
- I: 日本、たいたい [だいたい] 同じですね。
肩こりという〈はい〉かたも結構いらっしゃいので〈はい〉、はい。
で、入って、なんか、肩こりも治る、という話も〈んー〉聞いたんですけども。
- T: 日本では温泉に入り、入られますか？。
- I: あたしはね、はい、冬なれば結構〈うん〉でってるんですよ。
- T: で、日本では、水着で入らないですよ〈そうですね〉。
その…
- I: 最初はね、はい、あれ、な、と思ったんですけども、やっぱりみんな裸で入るから、わたしも入ります*
っていうか〈{笑}〉。
でも、やっぱり最初は気になって早くあがったんですよ〈はい〉。
おと、お友達がゆっくり入ってって言ってるんですけども、いや、あたしはこれで終わります〈{笑}〉。
ちょっと流して〈んー〉、っておっしゃ、おっしゃったんですけども〈はい〉、最初はね、今はサウナ入ったり、ゆっくりしたり〈んー〉。

はい、お隣のおばあちゃんの背中も〈おほ〉、おばあちゃん、届かないでしょ、あー、なんとかするって、はい。

おばあちゃん {笑} …

T: なんか、今、お友達が温泉連れていってくださった、っていう話だったんですけど〈そうです〉、なんか、日本社会っていうのはけっこう閉鎖的で、友達を作っていくのが難しいって言われてるんですけど、そのあたりはいかがでしょうか？

I: 最初はね、なかなか、そうですね〈はい〉、やっぱり一番の問題というか、言葉〈はい〉。

やー、やっぱりまだ日本語そんなに上手ではないから、どうやってアプローチ [アプローチ] するとか、でも、うちの主人がね、フィリピン人だけではなく、チョウナイもいるし、チョウネンは大事にしなきゃいけないんですよ〈うん〉、っておっしえってるんですけども〈はい〉、今はチョウナイと仲良く。

T: はい、その最初少し、やっぱ、壁があった〈そうですね〉。

それはどうやって、そこをアプローチして？

I: なんで日本はいちいちあいさつしなきゃいけない〈はい〉、という。

あと、お返し？

T: はい。

I: 例えば、うちの主人がね、あの、子どものいっぱい持ってきたんですけども、やっぱり3人のかそく [家族] は、こ、こな、こんないっぱい子どものは、食べられないんですね〈はい〉。

だから、お隣の、例えば、お隣の【人名】さんとか〈はい〉、半分に分けて、で、次の日は、なんか持ってくるんですよ〈はい〉。

あれ、なにか、で、うちの主人は、お返し*かね、いらないけども、なんで、物あげれば、すぐお返ししなきゃいけないんですよ〈うん〉。

うちの国は無いです〈はい〉。

もらいものは、もらいもの。

T: ん、もらいものは、もらいもの、っていうのは？

I: ありがとう。

T: ありがとう。

I: はい、もらったら、ありがとう〈はい〉。

T: で、もう忘れちゃっていいんですか {笑} ？

I: で、会ったら、あ、昨日のもらったりんごおいしかったよ、ねって、あー、よかったね、それだけです〈はい〉。

あと終わり〈はい〉。

はい。

で、日本は、はい、なんか、やっぱり違うんですね、くにくに〈んー〉。

くにくに。

T: なんで、お返しをするんだと思いました？

I: うちの主人に聞いたら〈はい〉、それは日本のルールなんだって。

T: ルール。

I: ルールというか〈はい〉、はい、前、昔から〈はい〉、はい。

やっぱり、あの一、フィリピン人の友だちと、あ、わたしたちはね、1か月1回集まるあるんですよ〈はい〉。

そうですね、なんで日本は、なんで日本人は、これしなきゃいけないの、やらなきゃいけないの、やっぱりみんなこの悩み〈はい〉、あるんですね〈ええ、ええ〉。

はい。

T: で、それは、どうやって、こう、自分の気持ちの中で…

I: だから…

T: その、言われたとおりにやるんでしょうけど、気持ちの中で、なんか、納得できないときは？…

I: だから、ご近所さんから、物もらったら、やっぱりこっちは返さなきゃいけないんですの、返さないきゃいけないんでしょうね、って、そういう気持ちもね、今、あるんですよ。

だから、もらったら必ずお返ししなきゃいけないの。

T: す、今はもうそのお返しをすることに、違和感っていうか、変な、変だな、っていう感じはないですか？

A003

- I : 今はないんですね。
最初は、変なと思ったんですよ 〈んー〉。
で、だんだんだん。
で、じかに [実家に] 帰っても、近所から物もらったり 〈はい〉、かならず [必ず] こっちも。
- T : フィリピンで帰って、実家っていうのは？。
- I : はい。
- T : フィリピンに帰って、いただいたらお返しをするようになっちゃ…
- I : はい。
で、うちの母 〈はい〉、母がね、あれ、喜ぶんじゃないですかって。
せっかくあなた [あなた] にあげたのに、なんで。
いや、気持ちです 〈{笑}〉って言うんです 〈はい〉 けども。
で、うちの主人、いや、にほんじゅ [日本人] らしいだなんて {笑} 〈{笑}〉、言われたんですけども。
- T : はい、はい、そういうふうに変ってきたということですね。
- I : そうですね 〈はい〉、はい。
- T : えーと、今、1か月に1回フィリピンのかたが集まるっていう話が 〈はい〉 あったんですけど、どんなことをするんですか？。
- I : スツテレス [ストレス] 解消 {笑}。
- T : はい、ストレス解消のために具体的にはどんなこと？。
- I : フィリピンの食べもの、みな、ひとりひとり、なにか、あの一、自分、自分で作ったもの、持ってきたり、
みなに食べさせたり、食べながら、そっちの悩む、こっちの悩む、こっちの悩む、そうですね、あなただけ
ではないよ、こっちもだよって、大変ですね、がんばらなきゃいけないんですね 〈んー〉。
- T : そいで、そういうときに、どんなものを持っていらっしゃるんですか、いつも？。
- I : なんていうかな、自慢ではないけど、うちはその悩みあまりないけども {笑}。
- T : ええ、え、ていうか料理、あ、悩みを持っていくんではなくて、きつと。
料理かなんか持っていくんですよ、作ったもの。
- I : そうですね 〈はい〉。
例えば、あなたのとこい [得意] はなに、デザートとか 〈ええ、ええ〉、じゃ、デザート持ってきて 〈はい〉、
って。
- T : じゃ、一番、その、【I】さんが一番好きな料理、っていうか、なんか、こう、持っていくことの多い料理
はなんですか？。
- I : あ、あたしはね、ココナッツミルク入れの、チケン [チキン] カレー。
- T : ココナッツミルク入りチキンカレー、おいしそうです。
- I : そうです。
- T : えー、ちょっと簡単に作り方教えてもらえますか？。
- I : はい。
- T : はい。
どういうふうにするんですか？。
- I : うちの料理はなんでも炒めるんですね 〈はい〉。
最初はタマネギ、ニンニク、ショウガ、で、鶏肉と一緒に炒め 〈はい〉、じっくり…
- T : タマネギは、おっきくていいんですか？。
- I : なんでもいいんですね 〈ほー〉。
お、おっきくてもいいんですね 〈はい、はい〉。
で、わたしの、ちょっと、変わってるね 〈ええ〉。
ニンジンとジャガイモが、バターで炒ん、炒めて、で、柔らかくしたら、一緒に、最初の、あの一、鶏肉
とかタマネギ [タマネギ] とか、ショウガ炒め、一緒に混ぜて、で、鶏肉柔らかいな、と思ったら、ココナ
ッツミルクのクリームみたいに 〈んー〉、水なしで、はい。
で、カーレパウダー 〈はい〉、はい、ちょこちょこちょこつと、って。
あたしは甘口だから、辛口だったらとんがらし 〈はい〉、はい、細かく切って 〈はい〉、はい、入れて、で、
そんなにミルクがとろとろとろ、ココナッツミルクがとろとろすれば、できあがります。
- T : ほー、おいしそうですね。

はい…

I : で、うちのご飯は、バターにんにくとか、チャーハンみたいに、バターニンニク、で、ご飯、チャーハンみたいに〈はい〉炒い、炒めて〈はい〉、それで食べるんですよ〈ほー〉、手で。

T : 手で。

家族みんな手でめしあ…

I : いや、お友だちです。

T : あ、そのー、持っていったフィリピン…

I : 息子の前は、絶対。

T : お子さんの前では、し…

I : 絶対。

T : なさらない。

I : はい。

T : それは、今だからですか、それとも将来的にも？。

あの、手で食べるっていうのは、一つのフィリピンの、その、文化ですよ？。

I : いやー、そうですね、はい。

T : で、それは、だから、例えば、今お子さんが小学校4年生だから見せないのか、もし、こう、ある程度の年齢になったら、一つの文化の継承として、教えるのか、その辺はどうお考えですか？。

I : いやー、あたしもね、何歳のときかな、うちの息子がね、あたし、あの一、魚、あじの魚〈はい〉、あの一、うちは、日本はいつも焼いたり煮たり〈はい〉、フィリピンはなんでも油炒め〈はい〉。

で、あたしはね、あじの魚が油でフライして、しとり [一人] で食べたんですよ、手で〈はい〉。

後ろが、息子いるんですよ〈はい〉。

あれ、ママ、手で食べてるねって。

あ、来たな、と思ったんですけども、知らんふりで、うん、おいしいよって、あ、食べてみたいねって。

あたしの手で息子さんに食べさせて、うん、おいしいねって。

で、そのときが、あら、ばれちゃったな〈{笑}〉。

今は気をつけてるんですけども〈んー〉、なるべく、子どもたちの前に、こういう〈手で食べ〉、食べ方がね、うちの主人がね、見せないでくださいって〈あー〉、言うかもしれないって。

T : かもしれない。

おし、見せて、見せないでくださいっておっしゃったわけじゃないんですね、はー。

I : で、たまに、あれ、うちのママインド人ではないねって〈{笑}〉。

インド人のば、手で食べるよね〈んー〉、って、うーん。

T : んー、なるほど。

あの一、お子さんを学校にいらしてると、その、お子さんの保護者の方との関係も難しいかなと思うんですけど、どうでしょうか？。

I : うちの息子は、そんなに、なんていうかな、すごく、あの一、お友だちと仲良くする子ですね〈うん〉。

おとなしく、くではない。

結構喋る [けっこしゃぶる] でもないし〈うん、うん〉、普通、はい。

で、すぐ、相手が友だちになる〈うん〉子ですよ。

でも、やっぱり、お母さんは日本人ではないから、やっぱり言葉足りません〈うん〉。

わたしは、小さいときは、本はまだ読みないし〈うん〉、本読みはあんまりやらなかったんですよ〈うん〉。

で、小さいときは、わたしも英語できるから、一所懸命英語教えたんですよ〈うん〉。

あー、やっぱりバイリンガル [バイリンガル] 無理かな〈んふふ〉。

T : あ、じゃ、あの、まー、お母さ、えっと、お子さんは学校ではうまくいってるので〈はい〉、あんまり特に問題がないかな、っていう感じなんですね。

I : いや、授業のは、問題あるかもしれない〈はい〉。

やっぱり国語は〈あーあー〉苦手なんですよ。

T : そういうときは、どっかにフォローをお願いするんですか、助けてもらうように？。

I : いや、今は毎週火曜日、ママと一緒に〈あー、か*…〉日本語勉強会に〈はい〉行ってます。

T : あ、それぞれ勉強してる、っていうこ…

I : はい。

A003

- T: はいわかりまし…
 じゃですね、一つ、ちょっと、ロールプレイってわかりますかね？。
- I: はい、はい。
- T: えーと、これ、携帯電話の、あの一、請求書の電話代が高いから、変だな、という、そういうものなんですけど〈はい〉、一応、裏に英語も〈はい〉書いてありますね〈あ一、はい〉。
 ちょっと。
- I: {指示文を読む}
 あ一、そうですね、はい。
- T: え一、わたしは、あの一、電話会社の人になりますので〈はい〉、その一、請求書を受け取って〈うん〉不審に思ってる役で、ちょ、ロールプレイお願いしたいんです。
- I: はい。
- T: よろしく。
 はい、え一、OCC電話、え一、担当【T】でございます。
- I: あ、もしもし一。
- T: はい。
- i: えっと一、聞きたいことあるんですが〈はい〉、い、いいんですか？。
- T: はい、なんですか？。
- I: えっと一、わたしの名前は【I (フルネーム)】です〈はい〉が〈はい〉、あの、携帯の、なんて言うんだっけ。
- T: せいきゅ、え、ここに書いてあるんで。
- I: 請求書だな。
- T: あ、はい、はい {笑}。
- I: 携帯の〈はい〉請求書がね、毎月が、うちの携帯は決まってるんですよ。
 でも、最近の〈はい〉来た請求書はね、ちょっと高いんですね。
- T: あ、そうでございますか〈はい〉。
 えーと、毎月より今月が高かった、ということ。
- I: そうですね、ちょっと、倍ですね。
- T: あ一、そうでござ〈はい〉…
 ほんとに、あの、失礼なんですけど、ま、国際電話なんかをお使いになったりとか、あと、例えば、ご家族の方で、あの、ちょっと使われたりとか、そういう可能性は、いかがでしょうか？。
- I: いや、実家に電話するときは、プリペイドカード使ってるんですけども〈はい〉、ないはずですね。
 こういう、ちょっとおかしいんですよ。
- T: あの一、どっかに置いておかれて、使われた可能性とかはいかがでしょうか？。
- I: ないんですね。
- T: え一、それで、そうしますと、あの、こちらでちょっと調査をさせていただいて、折り返しお返事ということで、よろしいでしょうか？。
- I: あ、お願いできるんですか？。
- T: はい。
- I: あ、じゃ、おねがします [お願いします]。
- T: はい、まことに申し訳ごら、ございません。
 あの、なるべく早く、お返事をいたしますので。
- I: はい、おねがします。
- T: はい、どうもありがとうございました。
 えーと、携帯電話でそんなことありました？。
- I: ないです。
- T: ないですか。
- I: ない。
- T: いろいろ、こう、ふし、なんかこう、変だなとか思ったりしたときは？。
- I: わたしは、いつも困っているのは〈はい〉、あの、仕事してるから〈ええ〉、宅急便〈はい〉、やっぱり誰かいないと、はがきみたいに置いてるんですね〈はい〉。

A003

あれ、やっぱり、漢字ですね。

T: あー、読むのが、宅急便の〈はい〉、はい。

I: 自分の名前はわかるけど〈はい〉、わたしの、わかるんですけどもね〈はい〉、はい、*から、これわたしの荷物ですから、あー、あたしいないから、どうすればいいかなと思うながら〈はい〉、主人にすぐ電話するんですよ〈{笑}〉。

で、主人はなんでもサポートやるんですよ。

T: 優しすぎて、なかなか… {笑}

I: 優し {笑} …

T: 日本語が、ってことですね、不便をしないので、あの、読み書きが難しいってこと。

I: じゃ、こっちから電話するから〈うん〉、じゃ、うちにいますね〈うん〉、あと買い物しないね〈うん〉、はい。

じゃ、今電話するから〈うん〉、はい、待っててね、て。

あと、1時間とか、また来るんですよ、宅急便が。

T: はい〈はい〉、じゃ、ん、今の望みは宅急便の〈はい〉、その不在配達通知っていうんですが、それが読めるようになる…

I: あとー、お子さんのお便り。

T: あー、学校からの。

I: 日にちだったら〈はい〉、で、片仮名、平仮名、書いたら、大丈夫なんですよ〈ええ〉。

はい。

なになに持っていくとか〈はい〉、最初はね、すいーと [水筒] 〈はい〉。

T: すい…

I: とうの場合はひらがなですね〈はい〉。

すいは、みずの漢字〈はい〉。

これなに、みず、す、水曜日の。

で〈うん〉、お子さんがね、2年生のとき〈はい〉、ママ、飲み物だよって。

T: {笑} って教えてくれたってことです。

I: ちらがみとか〈はい〉。

ちらがみも読めるけど、あれ、なにかな、ちらがみなにかな〈うん〉。

今はわかるんですけども。

T: はい〈はい〉、大変だったってことで〈大変だ〉。

はい、わかりました。

いろいろありがとうございます…

一応、ここで、あの、OPIを終わります〈はい〉ので、えーと、こちらは止めさせていただきます。